

カトリック 仙台教区報

2016年5月1日

No.229

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://www.sendai.catholic.jp/>

いつくしみの特別聖年

2015・12・8

～2016・11・20

教会は、「いつくしみを示したいという尽きない望みを抱いています」。わたしたちは長い間、いつくしみの道を示し、それを生きること忘れていたかもしれません。一方では、ただ正義のみを要求したいという欲求が、正義は第一歩であり必要不可欠ではあるものの、教会はより高くもっと意味のある目標に達するために進む必要があるということをお忘れさせていました。…ゆるしのあかしがなければ、砂漠で生活するような不毛で荒れた人生しかありません。

(いつくしみの特別聖年大勅書10)

主の復活を告げ知らせよう アレルヤ！

わたしたちキリスト信者は、父である神から遣わされて人間となられた御子キリストが、わたしたちの罪の償いに自分の命を差し出し、十字架での死を遂げられ、その死からの復活によって、命の源である父なる神と結ばれて生きる道を歩むという救いの恵みをわたしたちにもたらしてくださった、と信じています。

この主キリストによる救いをかけがえのない恵みとして喜んでいるわたしたちは、主キリストによって仙台教区という教会を構成する者として招かれたのですが、さらに、世に遣わされる者となっています。それは、「全世界が救いの知らせを聞いて信じ、信じて希望し、希望して愛するようになるため」である、と第二バチカン公会議の『啓示憲章』が教えています。

ところで、今、教会は「いつくしみの特別聖年」を過ごしています。教皇フランシスコは特別聖年



聖香油ミサに集まった仙台教区の司祭

毎年この聖香油のミサは、神の民が教区全体から集まって、

わたしたち仙台教区という教会・神の民は、日本の中で、そして東北の中でも、ほんの小さな群れにすぎませんが、委ねられたこの使命を喜んで受け留めます。そしてそのために働く力・恵みを、主日ごとに集まりキリストの死と復活の記念であるミサを祝うことを通していただくのです。

の大勅書の10番で、「教会の生命を支える柱は、いつくしみです。教会の司牧行為は、すべてが優しさに包まれていなければなりません。優しさをもって信者に語りかけるのです。教会が世に向けて語るどんなメッセージにもどんなあかしにも、いつくしみが欠けていてはなりません。教会の真正さは、いつくしみと思いのやりとりにあふれた愛の道を通るものです」と教えています。このことを本当に心して受けとめ、大切にしたいと思えます。全世界が救いの知らせを聞くことができるための第一の絶対の前提でしょう。

生命の泉

私たちの最も大切な信仰はキリストのご復活であるが、世界的に広がるには使徒たちの働きだけでは不可能だったことは明らかだ。▼復活したキリストは弟子たちの「不信仰とかたくなさをおとがめになった」(マルコ16・14)とあるが、にわかには信じられないという弟子たちの反応は極めて自然であり、正常だったのではないか。「おとがめになった」とあるがそんなに強くおとがめしているとは思えない。というのは後から付け加えられたマルコ16・9以下にも「信じなかった」という受け止め方が羅列されている▼復活という出来事に遭遇して疑われないはずはない。マグダラのマリア以下3人の婦人が天使から「あの方は先にガリラヤに行っている」と弟子たちに告げよと命じられたにも関わらず「だれにも何も言わなかった」という。恐怖に「震え上がった正気を失っていた」からだ▼ではどのようにして復活を受け止められるようになるのか。キリストご自身から学ばなければならぬ。即ちエマオに向かう二人の弟子に近づいて来た旅人姿のイエスは「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたって、御自分について書かれていることを説明された」(ルカ24・27)それから「パンを裂いてお渡しになったこの二つはどちらもないがしろにできない」▼この度の典礼改訂に当たってみことばの祭儀と聖体祭儀とにキチンと間を置くようにした▼私たちはこれまでミサにあずかり、聖体を拝領すればそれでこと足りるとして来た。そこから出てくる信仰は「聖体こそ靈魂の最善・即効の万能薬」とし、みことばを受け止める説教を聖体祭儀の添え物にし、聖職者中心の教会とした。これでは家族の中で信仰が継承されることは難しい▼使徒言行録にフィリポがエチオピアの高官にイザヤ書からイエスを解き明かした(8・26)。使徒たちはエマオでなさった宣教の原則を忠実に守っていたのだ。その締めくくりはイザヤ書「主の僕」だった。(守)



『司祭不在のときの主日の集会祭儀』

司教 平賀 徹夫

新しい年度となった先月4月から、仙台教区の司祭数は前年度に比して4人少ない状況でスタートすることになったとして、前回のこの欄に次のようなことを書きました。

「地区制を採ったのは、できるだけこの教会でも主日のミサがあるようにと望んでのことでした。そして司祭方には、主日は3か所でのミサも普通のこととなるほどに頑張ってもらいました。が、新年度はそれも難しくなり、さらには司祭方の健康状態等によっては、主日のミサがないという教会が増えることになるでしょう。…ミサがない場合の対応は二つ考えられます。一つは「近隣教会のミサへの参加」で、まずこれが勧められます。その二は、近隣教会が近くにない場合の「司祭不在のときの集会祭儀」です。

この「司祭不在のときの集会祭儀」について、実は、去る2月の臨時司教総会での議案の一つに、典礼委員会からの「全国共通版『司祭不在のときの主日の集会祭儀』儀式書に関する件」がありました。その提案経緯は、「典礼委員会主催の全国典礼担当者会議において、全国共通版の『司祭不在のときの主日の集会祭儀』儀式書を作成してほしいとの要望が寄せられた。このたび、その儀式書の諸言と式次第が整ったので、本臨時司教総会に提案する」というものでした。司祭数が少なくなり、主日にミサをできない小教区が増えてきたのはわが教区だけでなく全国的なことなのだ、と改めて思ったことでした。

仙台教区では2004年に教区独自の儀式書『集会祭儀』を作成しました。ですから既に、それを用いて礼拝集会を行ってきた小教区も少なくないと思います。ただ準備が不十分だったからか、その司会や勧めの言葉の担当は緊張するのていやだとか、ミサでなければその日曜日は教会は公休だ、とか言って参加者が少ない、などの声も聞こえたりもしました。ミサが一番ですが、主の日に信者が一緒に集まり、共に主の復活を記念し祝うことは信仰上大事なことです。

臨時司教総会でのこの議案は、「本臨時総会において指摘された事項を修正した『司祭不在のときの主日の集会祭儀』儀式書を承認する。」と決議されました。今年中に、それも早めに出版されることを期待しますが、仙台教区でもそれをテキストとして研修する機会をぜひ持ちたいと思います。

ささげる、象徴的に一つとなつていく神の民のミサということができると思います。このミサで、洗礼志願者のための油・病者のための油の祝福、そして聖香油の聖別が行なわれます。司祭とは、このミサで祝福・聖別された油をもつて、絶えず人々を、自分の民としてお集めになる神の御業に協力する働きをする者であるとも言えます。

さて、司祭団の皆様、今日は、主・キリストがその司祭職を使徒たちに与え、私たちにも与えてくださったことを記念する日であります。私たちは、年に一度この典礼の中で、公に、「司祭の約束の更新」を行います。この聖香油ミサの叙唱は「司祭はキリストの名によつて人々のために過越の食事を整えて救いのいけにえをささげ、言葉と秘跡によつて神の民を力づけるように召されています。また、司祭は、神のため、人々のために自らを渡して、キリストに従い、たゆみなく信仰と愛の証しを立てるように選ばれています」とうたっています。毎日のミサの中で私たちは、パンとブドウ酒の聖別の言葉を発するとき、イエスの言葉を自分の言葉として表明します。「皆、これを取って食べなさい」

い。これはあなたがたのために渡される、わたしのからだ、「これはわたしの血の杯、あなたがたに多くの人のために流されて、罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血」という言葉です。司祭は、キリストと共に自分を入るために渡すのです。キリストと共に人々の罪のゆるしのために、キリストと一緒に血を流すのです。確かにこれが私たち司祭の生き方であり、キリストに倣う「仕えらるるため」ではなく、仕えるため」の生き方です。こうして私たち司祭が率先し、ともに居てくだるキリストのしるしとなりたいたいと思います。(説教に続いて、司祭の約束の更新が行われた。)



聖香油を聖別する平賀司教



聖金曜日・主の受難
(十字架礼拝)



(洗足式)



復活徹夜祭 光りの儀

司教日程

5月・6月

- 5・1 ① 第3地区(四ツ家教会)
- 5・5 ② 大籠巡礼
- 5・10 ③ 司祭評定例会・教区司祭団役員
- 5・11 ④ 聖トミニコ学院中・高
- 5・15 ⑤ 聖霊降臨祭(元寺小路教会)
- 5・16 ⑥ 盛岡トミニカン修道院80周年
- 5・17 ⑦ 部落差別人権委・事務局会議
- 5・18 ⑧ SOSC(サポセン)会議
- 5・19 ⑨ 福島ブロック会議
- 5・21 ⑩ 宣教司牧評・役員会
- 5・23 ⑪ 部落差別人権委春季全信研修会
- 5・24 ⑫ 〃 狭山事件支援市民集会
- 5・29 ⑬ 後藤寿庵祭
- 5・30 ⑭ 司祭団月例会
- 6・1 ⑮ カリタス金石理事会、総会
- 6・3 ⑯ 子どもと女性権利擁護アスク
- 6・4 ⑰ 量屋丁教会100周年
- 6・5 ⑱ 第7地区(野田町教会)
- 6・7 ⑲ 司祭評役・教区司祭団役員
- 6・10 ⑳ ベース長会議
- 6・11 ㉑ 仙台教区修女連総会
- 6・12 ㉒ 第8地区堅信式(白河)
- 6・13 ㉓ 17 定例司教総会
- 6・21 ㉔ 日本カトリック児童施設協会 全国会議
- 6・22 ㉕ 教区財政評
- 6・26 ㉖ 元寺小路教会
- 6・27 ㉗ 司祭団月例会・責任役員会



祭壇に聖香油を塗って聖別する司教



い東日本大地震、私たち教会の平

須賀川教会献堂

2011・3・11、あの忌わし

地区だより

Ⅱ第8地区Ⅱ

二本松・いわき・小名浜
湯本・郡山・須賀川・白河

◆須賀川教会は聖堂再建のための工事が、このほど竣工し、4月17日献堂式を執り行うことになりました。多くの方々のお祈りと献金をお寄せいただいたてやうと喜びの日を迎えます。心から感謝いたします。



献堂式後の記念写真

穏な営みを突如破壊へと追い込んだ。忘れはしない。

あの日教会に駆けつけたものの余りの被害の大きさに、その惨状を目の当たりにして、ただ呆然として立ちすくんだ。翌日から破損した窓ガラス、崩れた壁板などのあと片付けに着手した。集まってくれた信徒たちと黙々作業に取り組んだ。思い出すと今でも辛く胸

しかしこうなつた以上、もはや聖堂の再建は困難かも知れない、という懸念が頭を過ぎる。大地震に襲われて、聖堂周辺の石垣が大きく崩れ、あわや隣家にまで被害が及ぶのではないかと危惧から、重機を入れて工事を進めなくてはならず、司祭館、聖堂の解体を余儀なくされた。正に断腸の思いで工事を断行した。そんな慌ただしい中でも日曜日のごミサは町内会館を借りて続けられた。

30余名の信徒の力では、聖堂の



仮設での写経

この喜ぶべき出来事は主のいくしみの象徴として、また教区内外のお祈りと献金をお寄せ下さった多くの方々の愛の結晶です。皆さん、多大のご支援ありがとうございました。(須賀川教会 清水 茂雄 ◆二本松教会の支援活動として、仮設で毎月「写経」をしています。ご指導は天台宗のご住職 般若心経から始まって、今は「日めくり

再建や、維持管理は困難で、一時は、再建をあきらめていた。そんな中でフィリピン人の信徒から、「私たちの祈る場を無くさないでほしい」との声が上がった。信徒の思いは、「たとえ小さくてもいい。聖堂を造って下さい」との願いで一致し、しかも司教様をはじめ教区の理解も得られ、やうと聖堂建設へと踏み出したのです。感謝でいっぱいです。

それから2年余、こんにち小さいながらも私たちの聖堂が完成を見たのです。喜ばしい思いと感謝でいっぱいです。



の赦しを
いただい
たものの、
今度は
それに対
する責任
を果たす
ために、
多くの課
題をクリ

◆郡山教会は、3月27日(日)、復活の主日に5名の洗礼・堅信式が行われ、新しい兄弟姉妹を迎えました。また、訪問部が高齢の方々を訪問して共に祈りしました。



4月
24日
(日)には、
東日本
大震災
復興支
援のため
に、「朗
読と音
楽による



白河教会聖堂にて

◆白河教会 ただいま信徒館建設中で、クリスマスも復活もお祝い会が出来ませんでした。5月1日に落成祝賀会を復活祭のお祝いと兼ねて行うつもりです。

アしていかなければなりません。一方今回洗礼を受けた高校生は、多感な時期に洗礼を受ける決意をしたことから、何らかの考えがあったものと想像するところです。ただそれがどのようなことであっても、神のいくしみによって、ニュートラルな立ち位置となり、将来の決断において、寄り添う神に励まされ自信をもって生きていくことができると思っています。私も彼に負けないように、神の御計画にみあう行いをもって生きていくことで、微力ながら代父の役目を果たしていこうと思っております。

復活祭に洗礼を受けて

復活祭には各教会で「入信の秘跡」が授けられた。この日洗礼を受けた方々に喜びの声を寄せていただいた。「神の子」として新たな人生を踏み出した方々には、入信までの様々な人生ドラマと、確かな神の導きが読み取れる。

幼いイエスの聖テレジア

小野美佐子(50代)本町教会
今から14年前、私はあるカトリック施設の採用試験を受け落ちました。でも、次の日「明日もう一度来て下さい」と一本の電話があり、再び訪れたその施設に、とても穏やかな一人の男性と優しい笑顔のシスターが待っていて下さいました。

その男性は、「神様は、必要なとき必要としている人をお与えになる」と言いわれ、シスターの方も「お恵みです」と一言。

その時、その言葉の重みを知らず私は、募集された職種とは別の場所で採用になりました。仕事をする日々の中で、うれしいことや悲しいこと、辛いこともたくさんありました。そんな時必ずシスターや職場の方々が、聖書に書かれているたとえをお話し下さいました。

9年前私は、別の職場の責任者という立場で異動になりました。就任早々、とても辛く苦しく耐えられない程の事がありました。もう無理、辞めたい、逃げ出したい…。私の心は叫んでいました。そんな時、シスター・

ゲルトラウデやたくさんの方々が私を心配し駆けつけて下さいました。そして「神は決して、あなたの力に余る試練を与えません」と言われました。こんな私だけどきどきと耐えられる! 私なら耐えられる。一人じゃない。いつも私と共にいて下さる神様がいます、私のために祈って下さる方がたくさんいることに感謝しました。

7年前、カトリック施設の責任者対象の全国研修が福岡でありました。参加される方々はシスターや信者さんばかり、信者じゃない責任者は、ほんの数人だけの御ミサの中で、祝福をいただくために列に並びました。司祭の前に立ち「祝福を」と頭を下げたその時、司祭の手がとても暖かく感じ、涙がこぼれました。その不思議な体験をシスター・ゲルトラウデにお話したら「お恵みですね。聖書のお勉強を始めましょう」と笑顔で言っていただき私の公教要理が始まりました。



復活徹夜祭の洗礼式(元寺小路教会)

仕事の都合もあり、月に何回も出来ないことや、シスターの転任、その要理を引き継いで下さったシスターのケガ。しばらく勉強をしないまま日々を過ごしていました。でも「ともにカダル集い」で聖書にかかれてある福音を分ち合ったり、職場に毎月、首藤神父様に来ていただいた聖書について講話をしていただいていたいました。

3年前、シスター・ゲルトラウデが青森へ転任されて私の要理はまたスタートしました。

洗礼を受けたい、でも家族にはなかなか打ち明けられずいた私。

そんな私の気持ちや最初に父が気づいていました。「お前の信仰は違うんだろ」その言葉に驚きました。誰も知らないと思っていたのに。母にも話さなければ。

いつ話そう、いつ話そう…。私は、神に祈りました。「洗礼を受けた」と話す私に、母は「わからない」とだけ。

2015年11月職場の聖書講話の時、首藤神父様に「洗礼を受けたいです」とお話ししたら「わかりました。今度の御復活にしましょう」と言っていただきました。

私の公教要理をして下さっていたシスター・ゲルトラウデも一緒に喜んで下さいました。

洗礼を受けるまで、とても長い時間がありました。今思えば、私に必要な時間だったんだと思います。神様は、いつもたくさんのお恵みを、鈍感な私でも気づけるようお与え下さいました。

洗礼を受け生まれ変わった私、これからは主の教えを守り生きていきます。

ヨハネ土方 敏彦(50代)

元寺小路教会

私と教会との出会いは、岩手県の水沢教会で「後藤寿庵」のお話を聞かせていただいたことでした。

それがきっかけとなり、ロワゼール神父様のキリスト教入門講座を1年間学ばせていただき、入信をしたいと思います。

洗礼式では、神父様、代父を初め多くの方々から祝福を受けました。皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後は信仰をより深めながら、沿岸被災地での活動にも参加していきたいと思っています

マキシミアノ・マリア・コルベ

M.S.(50代) 元寺小路教会

洗礼を受ける事になったきっかけは、一人の信徒と一人の司祭との出会いでした。その信徒と教会で活動(奉仕)する事がきっかけで、たくさんの方々と関わり、キリストを信じる生き方に触れました。また、司祭との関わりを通して洗礼を受けたいと思いました。

そして3月26日の復活徹夜祭に洗礼を受ける事ができました。

これまで多くの方々に支えていただき洗礼を受けることができました。改めてお礼申し上げます。これからも洗礼を受けた一人の信徒として、皆様と一緒に教会で祈り、活動していきたいです。

テレジア 大槻 美佐子(70代)

松木町教会

自分の人生

トマス神父様、代母の小川様のお導きで、復活祭に洗礼を受け、ありがたいことと思っております。

『散りぬべき時知りてこそ世の中の花も花なれ人も人なれ』細川ガラシャ若い時から、この方の生き方に、あこがれをもっておりました。

3年前に亡くなった主人が、青年期に大病を患い、その時聖書の言葉に助けられたと申しておりました。

『明日の日のことを思い煩うなかれ、明日の日のことは、明日の日の思い煩わん、一日の労苦は一日にて足れり』(マタイ6・34)

一日一日を感謝しながら生きていけばいいんだと思うようになりました。

私はそのことを聞いて、聖書の勉強を数年前からしておりました。竹内シスターの御指導のもと、尊敬できる先輩方と共に学び受洗まで導いていただきました。

先生の霊名と同じテレジアという由緒ある名までいただき感激すると共に、シスター、先輩方に感謝しております。今後は、自分の人生をしつかり生きていこうと思っております。

マリア・カタリナ 片桐 由佳

(30代) 元寺小路教会
主人が信者だったことから、言葉をかけていただいたりと、優
元寺小路教会にて結婚式を挙げ、
昨年10月には、息子が幼児洗礼
にあずかりました。

結婚当初はすぐに信者になる
という気持ちになれませんでした
たが、ミサに参加することで、
自然と澄んだ気持ちになり、少
しずつ心にある違和感がなくな
っていききました。

洗礼を決心した一番の理由は、
子どもを授かりお腹の子がたく
さんの祝福に恵まれて欲しいと
いう願いからです。

ロワゼール神父様のお言葉の
一つ一つが温かくその穏やかな
お人柄に惹かれて勉強を続ける
ことができました。

また代母の方には、書物を貸し
てくださったり、いつも気遣いの
言葉をかけていただいたりと、優
大越 稜太 (10代) いわき教会

フランススコ・ザビエル



洗礼と堅信を受けて (元寺小路教会)

私の親族にはキ
リスト信者は一人
もいません

五年、前東日本
大震災の援助でイ
タリアに行きまし
た。私はそこで、
あるイタリア人の
ところに八日間程
滞在してお世話にな
りました。イタリ
アはカトリックの
国でいろいろな観
光地に行きそのと
きはじめて教会に
入りました。大きな教会で高くド
ーム状の天井には天使や聖人の絵
入りしました。

入りました。大きな教会で高くド
ーム状の天井には天使や聖人の絵

るマント (cappa) を内陣(祭壇付
近)に納めたことに由来する」と記
されていて、マントを納めた礼拝
堂を cappella と呼び、そこから一
般に小聖堂を意味するようになった
ようです。

これで一応合羽橋とシスチナ礼
拝堂がつながりましたが、聖マル
タンのマントとはが残りしました。
そこで次回、聖マルタン (316
〜397) の事跡を調べます。
註: Wp=ウィキペディア
Bt=ブリタニカ百科事典



カペラ(cappella) ①

合唱曲 元寺小路 白石 裕

ご存知のように無伴奏の合唱曲
または歌曲の演奏をいいます、イ
タリア語で「礼拝堂における」「礼
拝堂風」という意味で、もともと
とヴァチカンにある教皇の「シス
チナ礼拝堂」で演奏される無伴奏
合唱を指していました。(Wp)

というcappella は礼拝
堂のことだと思っておりました。

たまたま、「人名の世界地図」
(21世紀研究会編) を読みまし
たら、cappella の語源は浅草にあ
る合羽橋の合羽と同じとありま
した。合羽橋は食器や調理器具の
商店街として有名で、その地名は

がたくさん描かれていました。こ
の旅はいい思い出になりました。

あの時から4年後の平日、私は
いわきのカトリック教会に行きま
した、次の日曜日にまた教会に行
き、ミサのご聖体の拝領の時、大
勢の信者たちと共に神父さんのと
ころに行き、ご聖体を受けようと
しました。チェスワフ神父は「あ
なたは洗礼を受けていますか？」
と聞かれ、私は「まだです」と言
い、祝福を受けました。あのとき
から毎週の水曜日、学校の帰りに
教会へ行き、ミサにあずかり、神
父さんと一緒に聖書を読みまし
た。そしてイエス様の話したすべ
ての信じて、1年たつて洗礼を受
けました。

私の誕生日前日は聖フランシ
スコ・ザビエルの祝日ですので、この
聖人の名が私の霊名になりました。
神様からいただいた洗礼の恵み
を、心から神様に感謝します。

ヨゼフ 伊澤 裕平 (60代)

元寺小路教会

技術屋という「物」と向き合うこ
とが多かった私が、信仰の世界に
簡単には入れるものかとはじめは
不安がありました。しかし、1年
間の入門講座や日曜のミサに参加
することによって、信ずることの
大切さを少しずつではありますが
わかってきたような気がします。
家内の後押しがあったとはいえ、
導いてくれた神父様、シスター、
代父の方々に感謝したいと思いま

す。まだ入学式を終えたばかりの1年
生、これからは入門講座でお世話にな
った森田神父様の「日曜ミサには欠かさ
ず参加する癖をつけなさい」との助言を
大切に、週の初めは気持ちを新たにし、
教会の方々と親交を深める意味でも、
これだけは必ず続けたいとおもいます。

リタ 佐々木 明美

元寺小路教会

一昨年の11月、函館在住の息子に会
い、帰り道、トラピスト修道院敷地内
のカトリック当別教会聖リタ教区を訪
れたのは、横内弘神父現トラピスト修
道院大院長様の司祭叙階後の初ミサの
日でした。そこで私は、聖体拝領の列
に並び、ご聖体をいただいたために最
後の信者さんが聖体をすぐにいただけ
ませんでした。無知とは言え、大事な
日の失敗をお詫びする手紙を書いたと
ころ、横内神父様より「初ミサは特別な
恵みをいただけるときでもあり、佐々
木さんにもたくさんの恵みがあたえら
れるはずですよ。神様が、励ましを具
体的に見える形であたえているのです」と
の、温かいお返事とともに元寺小路教
会を紹介してくださいました。

初めての元寺小路教会でのミサで、
隣で教えてくださったのは長谷川シ
スターでした。ロワゼール神父様は、聖
書講座でキリスト教の要理を教えてく
ださいました。そして、代母になつて
くださった中西様との出会い。一本一
本の細い恵みの糸が紡がれて、洗礼式
を迎えることができました。教会の皆
さん、今後ともよろしくお願いし

前仙台教区長・高松教区名誉司教・「望洋庵」庵主

フランシスコ・ザベリオ溝部 脩司教様 安らかに!!

～溝部脩司教略歴～

1935年3月5日 北朝鮮新義州生まれ
 1949年12月24日 別府教会にて受洗
 1955年3月 サレジオ修道会入会
 1964年2月 司祭叙階
 1990年12月 サレジオ修道会
 日本管区管区長就任
 1998年4月 長崎大司教区
 長崎コレジオ院長就任
 2000年6月12日 仙台教区司教に任命
 9月9日 司教叙階
 2004年5月14日 高松教区司教に任命
 7月19日 着座
 2011年3月 高松教区司教を引退
 2012年6月1日 京都「望洋庵」庵主
 2016年2月29日 帰天

仙台教区の司教数が少なくなり、今まで関わりが薄かったサレジオ修道会に勇気を出して伺って、管区長・山野内倫昭神父様に司祭派遣を願いました。幸い、今年は4月から毎月一つの主日に仙台教区のどこかの小教区に司祭を派遣しよう、とのご返事を頂けました。具体的なツメの話をしているとき管区長さんは、「いつだったか溝部司教さんから、『仙台教区も助けてあげてほしいよ』と言われてたんですよ」と、ぼろっとおっしゃいました。うわっ、仙台のことも心にかけてくださってたんだ、とありがたいたい熱い思いが浮かびました。サレジオ修道会さん、溝部司教さん、これからもよろしくお願いしますね。

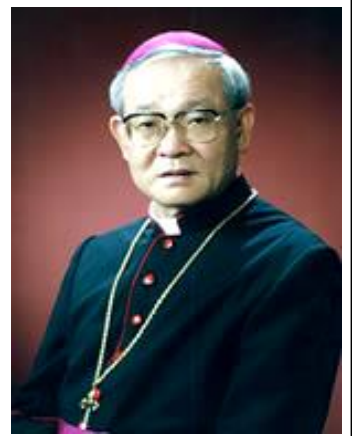
溝部司教が仙台教区に着座されてから半年も経ない時に八木山教会が火災に遭った。火災の知らせに一番先に駆けつけて下さった方々の中に、溝部司教がいた。司教は片手に男性下着が入ったビニール袋を持っておられたが、それを主任司祭の留守番役で焼けてしまった若いメキシコ人の神父に渡し、慰め労わった。

溝部司教様を偲ぶ

平賀 徹夫

新生八木山教会の恩人

岡田 謙一 八木山 (70代)



仙台教区と高松教区の司教を務めた溝部司教サレジオ修道会は、2月29日夜、入院中の京都大学医学部付属病院で帰天された。80歳。溝部司教は、2000年6月に仙台教区司教に任命され、同年9月9日に司教に叙階された。04年5月に高松教区の司教に任命され、同年7月19日に着座。また、歴史家として、ペトロ岐部と187殉教者やユスト高山右近の列福運動に貢献された。11年3月に高松教区司教を引退した後、京都の西陣教会敷地に「望洋庵」を開き、若者たちの育成に力を注いだ。葬儀、告別式は3月4日、高松市内の斎場で執り行われた。仙台教区では、3月21日、元寺小路教会で追悼ミサが行われた。



追悼ミサで献香する平賀司教

ておられた姿は、今も忘れられない。当時は、仙台地区の教会再編再配置が論議されていた最中で、八木山教会堂の再建はすぐには認められなかった。司教様に何度か再建のお願いをしたが、司教様は先ずは皆で「新生」ということについて考え、話し合いなさいといわれた。火災から1年数か月で念願かない、溝部司教により献堂式を挙げていたのだことは我々の一生の思い出となった。献堂記念に司教様から贈っていたいただいたマリア様が今も聖堂の奥で静かに私たちを見守っている。信仰を深め、勇気を・・・

鈴木 キミ子 松木町

溝部司教様が、松木町教会の黙想会で、「沖へこぎだしましよ」のお話がわたしの信仰を深め、勇気をくださいました。東日本大震災で被災した東北3県、特に福島に生きている私には、この勇気と行動の大切さをおいおこしてくださいました。どれくらいか分かりますが、これからもしっかりと生きていきます。どうぞ見守っていてください。溝部司教様、ありがとございます。お疲れ様でした。安らかに休息くださいませ。感謝。娘がお世話になりました。京けい子 北仙台 (60代)

溝部司教様には娘の信仰を育てていただき感謝いたしております。また、娘が苦しい時も寄り添っていただき、すっかりたくましくなりました。青年姉妹たちといっしょに我が家にお出でいただいたとき、若い方々が自然と祈る姿に感動いたしました。お亡くなりになったことは残念ですが、神様のことで、安らかにいらつしやることと思います。本当にありがとうございました。学院の危機を支えていただきました。中村 敬子 八戸塩町 (70代)

学校法人八戸ウエルスラ学院は、学院の危機に見舞われた時、司教様の支えをいただき、その危機を乗り越えることができました。ほんとうに感謝しています。また、職員研修もたくさんしていただきました。教職員一同とても感謝しています。私的にも、ほんとうにお世話になりました。神様のもので、ゆつくりと休んでいただきたいとお祈りいたします。大切にしているとは、阿部 正子 東仙台 (60代)

溝部司教様のおこぼで、大切にしているものが2つあります。①優しさで培われた心は成熟し、批判で培われた心は、未熟にとまる。(バレンティン神父のことば)

＊いろいろな思いの中で司教様に教えていただいたことばです。②誰にでも「よかったね!」といえることは大切なこと。＊高松教区の女性の会発足に招かれた時に「皆さん方、よい活動ができてよかったですね」と、申し上げたとき「人に対して、なかなか『よかったね』ということばは出ないのですよ」とおっしゃられました。これからも大切にします。



高山右近について講演2013. 11. 5

溝部 脩司教様 愛を・信仰を・希望をありがとう!!

『司教様は水辺に立った』

山内 愛 松木町 (30代)
♪主は水辺に立った わたしに声をかけた

「アイー」司教様の第一声は私の名前を呼ぶところから始まる。司教様によって見いだされた多くの若者にまぎれるちっぽけな私なのに、きちんと名前を呼び、私の存在を認めてくださった。それがどれほど嬉しかったか。どれほど救われたか。

♪みことばで漁にでた 主よ私を見つけた
あなたが呼ばれたから

司教様が私を見つけてくれたおかげで、多くの人と出会い、つながることができた。みんなで共に歌い、共に食べ、共に学び、共に問いかけ、共に笑った日々。

その日々は、私自身が、私が何者であるのかを見いだすきっかけとなった。弱い自分を、そして、神様から多くの賜物をいただいていると気付いた強い自分を。

♪水辺に船をすてて、みことばで漁にでよう

元寺小路教会の日曜学校のリーダー、WYD トロント大会の巡礼団、宗教教育者勉強会の一期生、そして、ミッションスクール小学校教師という役目を司教様は私に授け、教育を通して神様の大きな愛を伝えるという使命の礎を作ってくださいました。

司教様、私はコンパスを失ったようでとても心細いです。でも、私はこれからも感謝の気持ちを胸に漁を続けます。

司教様にいただいた使命を果たしていきますから、見ていてくださいね。

「アイー。泣き虫。笑顔が一番だよ。」ってまた言ってくださいね。

これからずっと共にいてくださいね。私、頑張りますから。

忘れません
大谷内 佑子 元寺小路 (30代)
司教様にありがとうと言いたいです。
司教様から洗礼を授かりました。当日、私は体調が悪かったのですが、司教様は後日、「あなたが苦しかったとき、私も体調が悪く、一緒に苦しかったんだよ」と言ってくれ、すごうれしく、ありがたかったです、忘れません。
心の糧を、ありがとう
佐藤 大会津若松 (70代)
溝部司教様、尊い教えに感謝しております。
会津地区の聖体奉仕者の任命中に、あるいはカトリック学校関係の研修会の指導者として、某大学での生涯学習の指導者として、司教様からは、たくさん心の糧をいただきました。

著書も読ませていただきました。この世にあつてお会いすることはありませんが、教えを受けた人の中に司教様の心は永遠に生き続けることでしょう。
夫が受洗しました
福田 和子
北仙台 (70代)
ある日曜日の午後、東仙台教会の坂道で偶然、溝部司教様にお会いしました。
ごあいさつをしたら、「どこの教会ですか？」と、おたずねになられたので「わたしは北仙台教会です」と申し「でも、夫はまだ未信者です。どうか司教様、おとりつぎを」とずうずうしくお願いしました。

ある日曜日の午後、東仙台教会の坂道で偶然、溝部司教様にお会いしました。
ごあいさつをしたら、「どこの教会ですか？」と、おたずねになられたので「わたしは北仙台教会です」と申し「でも、夫はまだ未信者です。どうか司教様、おとりつぎを」とずうずうしくお願いしました。



仙台・高松 青年交流会 2005・10

今思うと、恥ずかしい限りです。その後まもなく深沢神父様との初めての出会いがあり、夫は、公教要理を勉強し、東仙台教会で受洗いたしました。本当に司教様の取り次ぎと申す。感謝しております。平安をお祈り申し上げます。

う間の月日が流れました。司教様のご配慮がなければ、今の幸せはなかったのです。心から感謝申し上げます。どうか天国でゆっくりお休みください。またお会いする日まで。
大きな導きに感謝
伊藤 純子 宮古教会 (60代)
尊敬する大好きな溝部脩司教様、宮古教会の皆様、司教様のために祈りをささげています。仙台教区にいられてから、幾度かお会いし、お話を伺い、いつも感銘を受けながら、自分の信仰について考えさせられていました。大きな導きをありがとうございました。

今は司教様の永遠の安息をお祈りしております。感謝と、祈りのうちに！
信徒わずか10名の教会に
柳沼千賀子 二本松 (60代)
私の短い信仰生活の中でのことですが、信徒わずか10数名の二本松教会に司教様というご身分の方がおいでになるということは考えられないことでしたが、そういう中であつて初めておいでくださった司教様が、溝部司教様でした。
仙台教区の司教になられて、すべての教会を訪問されているとのこと、私はそのことに非常に驚いたことを昨日のことに覚えています。
その後、二本松キリシタン殉教祭のためにおいでくださった時には、この小さな二本松教会に、180名の方が集まりました。築50年の二本松教会の床も神様に守られて抜けることはありませんでした。



二本松教会での殉教祭ミサ

昨年2月3日の高山右近帰天400年記念式典で溝部司教様の導きによる巡礼ツアーに、司教様にお会いしたい気持ちで、思い切つて参加しました。一緒に巡礼はできませんでしたが、記念式典の講演も、すぐ前で聴けましたし、お話を交わすことができ、とても嬉しかったことを思い出します。また、次の再会を楽しみにしていたのに、かなわぬこととなりました。とても残念です。
司教様は、やり残したことがたくさんあつたことでしょうに。

京都で、「望洋庵」を始められると若者が年に2千人以上も出入りしていたとのこと、溝部司教様の人徳が偲ばれます。

わたしの生涯を若者に捧げたい（溝部司教生涯のモットー）



説教をする溝部司教

「共にいて下さった司教様」
高松教区神学生 高山 徹
西仙台教会での新成人の祝福の時、講演にお誘い頂いて以来、仲間と共に司教様に導いて頂きました。司教様は、御父のいくしみを、私たちと共に食べ、祈り、ある時は相撲を取り：伝えて下さいました。

私は、その後教育の現場で挫折を味わいましたが、司教様の下で再び立ち直らせて頂きました。自分の信仰を見つめ、イエス様に従う望みが沸きました。私と深く関わって下さったからです。私だけではなく、多くの青年一人ひとりと深く関わって下さったのです。神学校入学直前に頂いた言葉「遅いと言われても、鈍いと言われても、その人らしく誠実に歩めたらそれでいい」を想い起します。司教様、主の御許で、



川崎神父叙階式で 2004・7

美味しい食事と福音

風間 真澄(30代) 田園調布教会

2月21日。司教様の手を握ると、その手はいつものようにしつとりとしていた。その日は、高熱があり意識はなかったものの、手から伝わる熱さは、司教様の情熱のようにさえ感じさせられた。たくさんさんの感謝の言葉を病床の司教様に伝えて別れたのが、最後となった・・・。

しばらく司教不在が続いた仙台教区にいらつしやった溝部司教様は、積極的に青年たちの輪の中に入ってくださり、たくさんの方から合意を行ってくださった。美味しい食事と福音、分かち合いは、司教様を語るうえで欠かせない項目であろう。

当時の青年たちが、トロントでのWYDに司教様方と参加してからの勢いは、目を見張るものがあり、その青年たちの表情は皆、信仰に触れて生き生きとしていたことが印象的であった。

また、個人的には司教様と教育について語る機会が多く、お酒を飲みながら熱く語り合ったことが懐かしい。もともとずっと、沢山のことを教えて頂きかったことが、残念である。

2月29日。

司教様としては「4年に一度しか来ない閏日。皆、私の事を忘れるだろう」と、冗談交じりにおっしゃりそうな日にご帰天されたが、「いいえ、皆とても覚えてやすい日だ」と思っていますよ」と、返してあげたい。

司教様、私たちの新婚旅行先で合流し、アツシジで鳩料理を食べたこと、いつも嬉しそうにお話してくださいましたね。また一緒に食事をしながら、たくさんお話がしたいです。

今まで、本当に有難うございました。



仙台教区司教として最後の宮城県大会大勢の信徒に別れの挨拶をする溝部司教

しばらく先だと思いましたが、天国でお待ちいただけますか・・・？

ホイップクリーム

山本 摂(30代) 鶴見教会

唐突ですが、家庭や組織を運営するということはクリームをホイップする作業と通じるものがあるなと思います。根気強く、最初は飛び散らないように慎重に、けれど手早く、まとまりが出たら大胆に。甘さも必要だけれど、量とタイミングを間違えたらえらいことになんてところまでつくります。

「貸してみなさい」と、私の失敗したクリームをあつという間にホイップしてしまった司教様。その手技と意外な手の力強さがふとした時に思い出されます。それから13年：社会に出、家庭を持ち、挫折も喜びも重ねて、私も少しは腕を上げられたでしょうか。こんな私でも司教様の元へ行ける日が来るなら、綺麗なホイップを浮かべたアイリッシュコーヒーを、今

度は私が司教様へごちそうしたいと思います。

司教様に呼ばれて青年活動に

御供 真人 一本杉教会

「ガラリヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか」溝部司教様仙台最後の青年黙想のテーマと自分で歩き始めなさいという講話を、京都の仮通夜ミサで思い出ししていました。司教様に呼ばれて青年活動に入り、信仰の師として沈黙のうちに御言葉を思い巡らし分ち合うことを教わりました。WYDケルン大会と一緒に歩き野宿しながら、また、迷ったときは高松や望洋庵に伺い、祈りと分かち合いを共にしました。多くの困難な使命、なにより青年に信仰を伝えるご自分の召命を走り抜かれた司教様の小さな背中を思い出します。これからも司教様が残された黙想の集いや人権を考える委員会、その思いと言葉を分かち合い歩んで行きます。今はゆっくりお休み下さい。



歓談する溝部司教

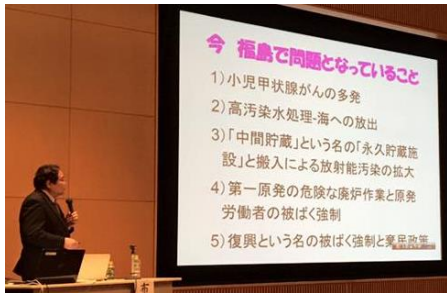
いのちの光3・15フクシマ

ーチェルノブイリから30年、フクシマから5年
現実を切斷する私たちから、連帯する私たちへー

2011年3月15日は、東京電力福島第一原子力発電所が3度目の爆発を起こし、フクシマの運命を変えた日。事故後もなお、加速する原発再稼働の動き、原発輸出などにより、原発の重要な課題が軽んじられようとしている。現実と向き合い、広く共有するため、今回は現地においてすら閉ざされつつある声に耳を傾け、原町教会でのミサによる祈りと、現地の人々の声を聴き、「いのち」の在り方について共に考え、メッセージを発信していこうと、原町教会信徒有志の実行委員会が企画した。今回で3回目。3月13日(日)コラッセふくしま多目的ホールでの講演会とシンポジウム。15日(火)原町教会でのミサが行われた。

講演は「不安を抱える声を聴き続けた医師の想い」と題して「ふくしま共同診療所」院長の布施幸彦氏が話されました。写真。

小児甲状腺ガンが多発する現地で、子どもたちの甲状腺のエコー検査、仮設住宅での健康診断、除染作業者の検診と治療にあたり、何よりも不安を抱えた子どもや母親たちに寄り添う活動は、情熱に溢れ頭の下がる思いでした。この診療所の支援に、カトリックの方々もとても多く関わっている事はうれしい事です。



- 今 福島で問題となっていること
- 1) 小児甲状腺がんの多発
 - 2) 高汚染水処理・海への放出
 - 3) 「中間貯蔵」という名の「永久貯蔵施設」と搬入による放射能汚染の拡大
 - 4) 第一原発の危険な廃炉作業と原発労働者の被ばく強制
 - 5) 復興という名の被ばく強制と冤罪追放

シンポジウムでは3人のパネリストが話されました。子どもたちを福島から山形まで移動させて、安全な場所ですっきり遊ばせる保育活動をしている辺見妙子氏。

自分の郷里である富岡町がフレコンバック(除

の小さな生きものにも生きる権利があるのでは?と話され、この問いかけは私の心に刺さるように残りました。

3月14日、原町ベースのボランティアの方の案内で、何回か訪ねている小高町を視察。崩れたままの家屋などは今は片付けられていました。「小高プラットホーム」で一人の方から5年前の避難から、仮設住宅暮らしを経て、今こゝで仲間と悲しみを分かち合い、自立していく歩みを伺い、希望の光を見た思いでした。その後小高から浪江町、第一原発のある双葉町、大熊町、富岡町を通り広野町の元サッカー競技場まで南下しました。途中爆発を起こした第一原発のある大



3人のパネリストによるシンポジウム

染物の入った黒い袋で巨大なゴミ捨て場となり、再生できないのではないかと、やり場のない悲しみと怒りの声を伝えた渡辺徳二氏。安部司志氏は除染作業の中で山椒魚との出会いから、生きる権利は人間だけのものなのか?この小さな生きものにも生きる権利があるのでは?と話され、この問いかけは私の心に刺さるように残りました。

熊町あたりで、持っていた線量計が7マイクログリットまで上昇、これは年間に換算すると70ミリシーベルト位になるとの事。放射能は色もなく見えない、臭わない、触る事もできない。汚染されたこの地域は入って住むことも出来ない帰宅困難区域(年間50ミリシーベルト以上)となっています。いったいこの地域は再生できるのだろうか?セシウム137が半減するためには30年かかると言われています。農地を30年放置したら到底再生は出来ないのでは!暗たんたる想いで車中からみ続けました。

3月15日は原町教会に平賀司教様を迎え、大倉神父様、狩浦神父様による「いのちの光3・15フクシマ」の派遣ミサが行われました。原町教会がいくつかの聖年の巡礼指定教会でもあるため、遠くから花を携えての参加者もあり、80名位となったでしょう。

ミサの中で原発事故後、地震津波で亡くなられた方々、被災者、またこの災害のため働かれ今は天国に召された仙台教区の司祭のお名前が次々と読まれました。そして、3月15日、この地で何故祈り、何に向き合っているのか、正に原発事故を通していのちを考え、私たちが成すべき事は何かを問われたのです。私は小高の立ち上がりへと努力する彼女に光を。多発する小児甲状腺ガンの実情を無視する一つの流れの中で悩む人、それを力強く支える人、今も住むことが出来ない地域、その一つ一つが光と闇のように交錯する中で、事故から5年たった今もなお、福島で起こっている問題は私たちの問題だと受け止めています。各々の置かれた立場で、自分のできることは何かを考え、歩んでいきたいと思っています。

(八戸塩町教会 掛端不似子)

平成28年度カトリック医師会

今年度から、仙台支部長が変わりましたのでお知らせします。これまで、仙台支部長は藤村重文先生にお願いしておりましたが、今年度から、私、我妻 恵が、交代してその任を引き継ぐこととなりました。どうぞよろしくおねがいします。

昨年度は、7月に交流会と総会を大船渡で開催し、その席で、教区内の神父様方の健康保持に寄与できる、何らかの活動を企画しようという提案があり、この提案に沿って、今年1月の司祭会議に合わせて、「食事についての講演会」を開催しました。今年度については、今から、交流会・総会の準備について話し合い、活動目標等検討していきたいと考えております。また、日本カトリック医師会として、今年の11月、京都で、アジアカトリック医師会総会を開催することとなっております。多数の参加を呼び掛けておりますので、よろしく願いいたします。

さて、4月10日にカトリック医師会の理事会・評議員会が京都大学で持たれ、その特別講演として、京都大学名誉教授の棚次正和先生が、「医療と祈りーいきいきと生きる」と題して話され、日本語の「いのち」は、本来「い(生命力)ち(言)」ということ、生命の根源のひびきに言葉を乗せて高らかに宜(よろ)だすことのことです。さらに、祈り方とは息の仕方、要するに私たちの「生き方」に他ならないとのことでした。この講演のように、我々仙台支部も、祈りを胸に、教区の信徒お一人一人の健康な信仰生活に少しでも寄与してゆきたいと願っております。

日本カトリック医師会仙台支部長

我妻 恵

告知板

◆「春の後藤寿庵祭」

日時：2016年5月29日(日)10:00～

会場：奥州市水沢区西田「寿庵廟」前(雨天：水沢教会)

問合せ：水沢教会 高橋 昌神父

岩手県奥州市水沢区字川端 191-1 ☎0197-25-7707

「後藤寿庵顕彰会」会員募集中

◆後藤寿庵祭と東北殉教地巡りの旅

日程：2016年5月28日(土)～30(月)

同行：高橋 昌神父・添乗員

費用：128,000円東京駅発 全行程食事付

最少施行人数：15名(現地参加、解散可・要相談)

企画：(株)パラダイス社(横浜)

問合せ：水沢教会 高橋 昌神父

◆研修会「信徒としての使命を生きる」

—私の固有の使命— 3回コース

講師：鈴木 隆(霊性センター「せせらぎ」スタッフ)

第1回 ユスト高山右近と使命に生きる信徒

7月16日(土)18:00～20:00

第2回 ユスト高山右近と霊操

10月8日(土)18:00～20:00

第3回 私の召命と使命

2017年1月7日(土)18:00～20:00

会場：元寺小路教会

主催：信徒養成チーム(担当司祭森田直樹)

参加費：無料

◆霊的同伴者の養成会 in 仙台

2年コース(2016年7月～2018年1月)

会場：カトリック東仙台教会(予定)

主催：せせらぎ in 仙台

日程：①2016・7・17～18 ②10・9～10

③2017・1・8～9 ④7・16～17 ⑤10・8～9

⑥2018・1・7～8 いずれも(日)～(月)1泊2日

初日13:30受付 翌日16:00終了

定員：25名(原則として全日程参加出来る方)

申込：オタワ愛徳修道女会 東仙台修道院

☎022-256-5279 Mail: paurnasco@yahoo.co.jp

ハンセン病問題と仙台教区
人権を考える委員会新生園教会の歩み(2)
溝部司教様の永遠の安息をお祈りします。

溝部司教様が2004年7月4日付教区報158号「仙台教区を去るにあたって」で「人とのかわりを信仰の目で見ることにも強調しました。教会は単なる人間の集まりではないからです。これに関しては、最後に「人権を考える委員会」を発足までこぎつけたことを特に喜んでいました。教会は人権を大切にしなければなりません。人を傷つけて悔として恥じない、こんなことは教会には決してあってはならないことです」と書き残された思いを受け継いで参ります。

さて、献堂から2年後の1956昭和30年4月5日。矢本(現東松島市)にいたアメリカ進駐軍松島航空隊の米兵カトリック信徒有志の浄財9万9千円(当時)により大阪で作られたアンゼラスの鐘が、米軍のヘリコプターで矢本から空輸され、見物人がいっぱいの新生園グラウンドに着地。小林仙台司教により祝別された後、聖堂にとりつけられ、平成8年頃まで朝昼晩お告げの鐘を毎日園内に響かせていました。

明くる1956(昭和31)年6月、小林司教によって20数名の信徒に聖信の秘跡がさすけられ、翌7月司教のすすめでレジオ・マリエが結成され、10数名が会員となつて活動を始めました。しかし1960(昭和35)年頃から病気が治癒して退園する者が出るようになり、暁の星会員(新生園教会信徒)の中からも10数名が退園し、レジオ・マリエも自然消滅してしまいました。

東北新生園では、近隣農家の田植え稲刈りの手伝いをしたり、労働者として土木・建設業者に雇われ園まで送迎されたりと、隔離政策の下でも昭和30年代以降は出入りがゆるやかになったようです。園内を公道が通り、周辺住民も生活道路として昔から自由に通行していた独特な事情もあり、司祭、修道者、信徒が新生園を出入りし共に祈つてきました。

一方で、献堂後数年は、ミサをささげる聖堂の中でも、職員等の信徒は台所勝手口から階段を上つて二階であずかり、聖体は一度外に出て香部屋に入り拝領するなど、玄関を入りし一階であずかる新生園信徒と離れていた時期もありました。

参考「宮城県カトリック教会百年のあゆみ」、新生園教会信徒の人権を考える委員会 御供 真人

新刊紹介

今こそ問われる市民意識

わたしに何が出来るか



著者 伊藤 千尋/発行 女子パウロ会/定価 1400円+税

本書は、2010年1月号から2015年4月号までの月刊誌「あけぼの」に連載されたものです。著者の「あ」とがき」にあるように、本書を貫いているのは、「活かす」という言葉で表現される諸々のこと。

本書の内容は、まず、現代という時代が「市民の時代」になってきているのだ、ということでもまとめられています。

次に、「平和」をいろいろな角度からとらえていきます。沖縄、兵器の問題、民主主義との関わりからも平和について語られています。

3では「憲法」の問題を取り上げ、

九条の問題、コストリカが平和憲法を生きている現実に触れており、4では「社会」を、5では「世界から」、6は「人生」、7は「原発」を取り扱っています。

読者の皆さんは、ご自分の関心のある項目から読み始めても、最初から読み始めても、どちらでもできるのですが、必要に迫られてある箇所を読んだとしても、必ず初めから、読んでみたいと思わせるものです。

皆さんも、あるところでは著者のこの国際感覚に驚き、あるところでは著者の人を見る目の温かさを感じることでしよう。

著者は、朝日新聞社記者になる前の学生時代から、国際ボランティアや東欧の現地調査に携わり、サンパウロ、バルセロナ、ロサンゼルス、各支局長を経験なさったことも、すべて著者の中に活かされているからこそ、本書が誕生したのでしよう。

本書を読んで、真剣に「今こそ市民意識が問われている」「わたしにできることは何か」と、考えさせるものです。

編集後記

2月29日、復活祭を待たずに溝部司教様が帰天されました。

残念で何ともやりきれない気持ちです。仙台での追悼ミサの際に、溝部司教様への思いを書いていたばかり用紙をお配りしました。多くの方が書いてくださいました。読んでいるうちに誰からも好かれ、誰をも大事にしてください司教様だったと改めて胸に響きました。

「どうぞ、ゆつくりお休みください」

「仙台教区報」について、ご感想、ご意見などお寄せください。(岩井)

「祈ってください」と注文の多いこと、司教様は天国でもご多忙?

復活祭で洗礼を受けられた方々からの投稿もぜひお読みいただけたらと思います。

今回は、10頁になりました。

「地区だより」の第7地区と「地球を大事にする会」のコラムは、都合により今回はお休みします。